一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

（土曜日――午前の第二の部）

メッセージ　８

一人の新しい人のために神の執事職を遂行する

聖書：コロサイ 1:25．エペソ 3:2, 9．Ｉコリント 4:1-2．9:16-17．Ｉペテロ 4:10

Ｉ．神は彼のエコノミーを完成するために、執事をもって奉仕させ、供給させ、管理させ、神のエコノミーを執行させなければなりません――Ｉコリント 4:1．Ｉペテロ 4:10：

Ａ．「執事」のギリシャ語は、Ｉテモテ第 1 章 4 節とエペソ第 1 章 10 節の「エコノミー」と同じ語根からなっています：

１．それが意味するのは、「分与する執事」、すなわち「家庭の管理者、すなわち家の中にある供給をそのメンバーに分与する人」です。

２．執事は分与する者であり、神聖な命の供給を神の子供たちに分与する者です――ルカ 12:42．16:1．テトス 1:7．Ｉペテロ 4:10：

ａ．使徒は主によって任命されてそのような執事となりました。

ｂ．分与する奉仕、執事職は、使徒の務めです。

Ｂ．新約において啓示されている神のエコノミーには、おもに二つの奥義があります――ローマ 16:25．啓 10:7：

１．第一の奥義は、コロサイ人への手紙の中で啓示されており、それは神の奥義としてのキリストです――コロサイ 2:2。

２．第二の奥義は、エペソ人への手紙の中で啓示され説明されており、それはキリストの奥義としての召会です――エペソ 3:4。

Ｃ．分与する務めにおいて、最も重要なのは執事が忠信であることが現れることです――Ｉコリント 4:2．7:25．ルカ 12:42．マタイ 24:45．25:21．ルカ 16:10-12．19:17．エペソ 6:21．コロサイ 1:7．4:7, 9．Ｉテモテ 1:12．3:11．Ⅱテモテ 2:2．Ｉペテロ 5:12．啓 2:10, 13．17:14。

Ⅱ．神の新約エコノミーにおいて、神の執事に対する切迫した必要があります――Ｉテモテ 1:4．コロサイ 1:25：

Ａ．執事職は、神の神聖な案配であって、神の新約エコノミーを完成します――エペソ 3:2．Ｉコリント 9:17。

Ｂ．神のエコノミーは、神の執事職となって、すべての信者に与えられました――エペソ 3:2, 9：

１．エペソ第 3 章でパウロは、「オイコノミア（oikonomia）」というギリシャ語を用いて二つの事を指しています：

ａ．神に関して、「オイコノミア」は、神のエコノミーを指しています――９節。

ｂ．わたしたちに関して、「オイコノミア」は、執事職を指しています――２節。

ｃ．神の執事職は神のエコノミーにしたがっています。神にとって、それはエコノミーの事柄であり、わたしたちにとってそれは執事職の事柄です。

２．恵みの執事職は、キリストの豊富をわたしたちの存在の中へと分与し、わたした

ちを成長させ、召会とならせることです――8節。

C．全聖書の中心点は、神の心の願いであって、ご自身を人の中へと分与することです――ピリピ2:13．エペソ1:5, 9．3:17前半：

1．神のエコノミーは、ご自身を人の中へと分与するのを遂行することです――9節。

2．神の永遠の定められた御旨を完成することができる一人の新しい人は、神の継続的な、永遠の分与を受けます――2:15．4:24．3:17前半：

a．安定した水の流れのように、神は少しずつご自身を、新しい人の各部分である人たちの中へと分与します――啓22:1。

b．神の継続的で、安定した、永遠の分与は、わたしたちを構成し、組み合わせ、共に建造します。

D．パウロの執事職は、神の言葉を完成して、キリストを彼のすべての豊富と共に諸召会の中へと分与することでした――コロサイ1:25．Ⅰコリント4:1-2：

1．パウロは何世紀も前に用いられて、神聖な啓示を完成しましたが、今日、神聖な啓示は依然として実行上において完成される必要があります：

a．神の敵であるサタンは、神の言葉の完成を破壊する機会を探し求めています。

b．敵のこうかつさは、パウロを通して完成された言葉におおいをかけることです――Ⅱコリント4:3-4。

c．神の言葉が完成されなければ、神の定められた御旨は成就されることができません。そしてキリストは彼の花嫁を得ることができず、彼の王国と共にやって来ることもできません。

2．今日わたしたちが供給しているものは、パウロに与えられた神聖な啓示の完成です。

3．わたしたちは主の回復において、神の言葉を完成することのできる執事をさらに多く必要とします――Ⅱテモテ2:2。

Ⅲ．神の執事職は、恵みの執事職です――エペソ3:2：

A．恵みの執事職は、恵みのエコノミーであって、神の新約エコノミーを遂行します――2節。

B．恵みとは、神ご自身がキリストの中でその霊として、わたしたちに与えられ、獲得され、享受されることです――ヨハネ1:17．使徒20:24．エペソ3:2：

1．キリストの中でわたしたちに与えられた恵みは、世が始まる前にわたしたちに与えられたものです――Ⅱテモテ1:9．テトス2:11。

2．初めにあった神は、時間の中で肉体と成り、恵みとして人が受け、所有し、享受するためであり、神を接触することができ、触れることができ、受け入れることができ、経験することができ、入ることができ、享受することができるようにしました――ヨハネ1:1, 14, 16-17。

3．わたしたちの主イエス・キリストの恵みは、三一の神（御子の中に具体化され、命を与える霊として実際化された）の満ちあふれる供給です。それをわたしたちは人の霊を活用することを通して享受することができます――ガラテヤ6:18。

4．恵みとは、神聖な三一がわたしたちの中へと伝達されて、わたしたちの享受となることであり、また三一の神が父、子、霊という三つの面で具体化されて現され

ることです――Ⅱコリント 13:14．民 6:22-27．詩 36:8-9：

ａ．主の恵みとは、わたしたちの命としての主ご自身がわたしたちの享受となることです（ヨハネ 1:17．Ⅰコリント 15:10）。神の愛とは、神ご自身であり（Ⅰヨハネ 4:8,16）、主の恵みの源です。その霊の交わりとは、その霊ご自身が、主の恵みと神の愛を伝達して、わたしたちにあずからせることです――Ⅱコリント 13:14。

ｂ．Ⅱコリント第 13 章 14 節では、主の恵みが最初に述べられています。なぜなら、本書はキリストの恵みについての書であるからです―― 1:12．4:15．6:1．8:1, 9．9:8, 14．12:9。

ｃ．聖霊はキリストの恵みと御父の愛との循環、伝達であって、わたしたちのクリスチャン生活と召会生活の供給です。

５．驚くべき神聖な伝達が日ごとに起こるべきです。神は恵みの霊をあふれるばかりに供給しており、わたしたちは恵みの霊を絶えず受けて分与すべきです――ヨハネ 1:16．ヘブル 10:29 後半．ガラテヤ 3:2-5．エペソ 3:2．4:29。

Ｃ．神の恵みの福音とは、恵みの執事職であって、神を人々の中へと分与して、彼らの享受とならせることです。パウロは彼の務めにおいて、神の恵みの福音を厳かに証しして、神を人々の中へと供給しました。

Ｄ．クリスチャン生活は、恵みの生活、恵みを経験することであり、わたしたちに恵みの執事職、すなわち恵みの分与を遂行させます――Ⅱコリント 12:9．Ⅱテモテ 4:22．エペソ 3:2。

Ｅ．キリストのからだの実行上の生活と建造は、神の恵みとしてのキリストを内側で享受することから出てきます――Ⅰコリント 1:9．Ⅱコリント 13:14。

Ⅳ．諸召会の中で責任を担っている人たちは、神の執事職にあずかる必要があります――テトス 1:7, 9：

Ａ．長老たちは率先して、キリストの豊富を他の人たちの中へと分与すべきです。

Ｂ．主の回復の中で導き、諸召会を顧みる責任を担っている人たちはみな、自分たちがそのような神聖な執事職に分を持っていることを認識する必要があります。

Ⅴ．パウロは神のエコノミーにおける忠信な執事であり、一人の新しい人の感覚を持っていたので、彼の心の中にあったのは、単に特定の地方召会や特定の聖徒だけではなく、宇宙的な一人の新しい人でした――Ⅰコリント 4:1-2．9:16-17．コロサイ 3:10-11．4:7-17：

Ａ．「わたしたちに一人の新しい人の感覚があるなら、わたしたちはもはや、自分の国の召会は他の国の召会と何の関係もないと考えるべきではありません。そうではなく、すべての召会が今日、一人の新しい人であることを、わたしたちは認識するでしょう。どうかわたしたちが主を見つめて、決して分派的になることがありませんように。わたしたちは、個人的に信者としても、あるいは団体的に地方召会としても、分派的になろうとしません。その反対に、わたしたちすべて、すべての召会のすべての聖徒は、一人の新しい人です」（コロサイ人への手紙ライフスタディ（2）、第 31 編）。

Ｂ．「わたしたちはまた、今日、地上に別の人、すなわちすべての信者を含む新しい人

がいることに歓喜すべきです。イエス・キリストの死と復活を通して生まれたこの新しい人は、今や地の至る所に広がり、成長しつつあります。主を賛美します、わたしたちはこの新しい人の一部分です！」（ヨハネの文書における幕屋とささげ物の成就（3）、第 47 編）。

務めの書物からの抜粋：

神の執事職

コロサイ人への手紙第 1 章 25 節でパウロは、「神の執事職にしたがって、その奉仕者になりました」と言っています。神の完全な表現のために神の執事職が必要です。

執事職の意味を正確に理解することは重要です。ここで執事職と訳されたギリシャ語の言葉、オイコノミア（oikonomia）は、エペソ人への手紙第 1 章 10 節と第 3 章 9 節でエコノミー（経綸）と訳されている言葉と同じです。その言葉はエペソ人への手紙第 3 章 2 節にもあります。パウロはそこで、彼に与えられた恵みの執事職について語っています。古代の用法によれば、「オイコノミア」は執事職、経綸、行政を意味しました。パウロの時代、多くの裕福な家庭には執事がいました。彼らの責任は、食物や他の必要品を家の人に分配することでした。わたしたちの御父は大きな家庭、神聖な家族を持っておられます。わたしたちの御父は莫大な豊富を持っておられるので、彼の家庭では多くの執事がこれらの豊富を彼の子たちに分与する必要があります。この分与が執事職です。ですから、執事職は経綸です。

ここの経綸という言葉は、神が人々を取り扱う時代や手段を意味するのではありません。それは、神が彼の豊富を彼の選ばれた者の中へと分与することを言っています。この経綸は執事職であり、神の奉仕者の分与する務めを伴っています。この分与の務めはまた神の行政でもあります。今日、神はご自身をわたしたちの中へと分与することによって、彼の行政を執行されます。この執事職、この分与、この行政が神のエコノミーです。神の新約エコノミーでは、神の執事職が絶対に必要です。

すでに指摘したように、執事職は王家や上流家庭での富の分与を言っています。神の王家はキリストにあって豊富です。コロサイ人への手紙によれば、神の家庭は、すべてを含む首位の方、見えない神のかたち、全被造物の中で最初に生まれた方、死人の中から最初に生まれた方であるキリストにあって特に豊富です。三一の神の完全な表現であるキリストの豊富は、神の家族の人の中へと分与される必要があります。この分与の奉仕は、コロサイ人への手紙第 1 章 25 節で神の執事職と呼ばれており、使徒パウロの働きでした。それはまた今日わたしたちの働きでもあるべきです。

今日のキリスト教で神の執事職を遂行する奉仕者や働き人は多くありません。これは、キリストの豊富を神の王家の人たちの中へと実際に分与している人は多くいないことを意味します。この豊富な、すべてを含む、首位のキリストが、彼のからだの肢体の中へと分与されるために、神の執事職が必要とされます。

この執事職は新約における務めです。新約の務めは、すべてを含むキリストの計り知れない豊富を神の家族の人の中へと分与することです。使徒パウロはキリストの豊富を聖徒たちの中へと分与しました。これは、わたしたちが今日、務めの中で行なっていることです。

神の執事職は、神のエコノミーにしたがっています。神について、それはエコノミーの

事柄であり、わたしたちについて、それは執事職の事柄です。すべての聖徒たちは、たとえいかに無意味なように見えても、神のエコノミーにしたがった務めを持っています。これは、すべての聖徒たちがキリストの豊富を人の中へと分与することができることを意味します。

神の心の願いは、ご自身を人の中へと分与することです。これが全聖書の中心点です。神のエコノミーは、ご自身を人の中へと分与することを遂行することです。わたしたちは、わたしたちの執事職、すなわちキリストの豊富を分与する務めを通して、このエコノミーにあずかるのです。キリストの豊富がわたしたちの中へと分与された後、わたしたちは負担を取り上げて、それらを人の中へと分与する必要があります。神について、これらの豊富は彼のエコノミーです。わたしたちについて、それらは執事職です。それらはわたしたちによって人の中へと分与されるとき、神の分与となります。神のエコノミーがわたしたちに届くとき、それはわたしたちの執事職となります。わたしたちがキリストを人の中へと分与することによって、わたしたちの執事職を遂行するとき、それは神を彼らの中へと分与することになります。ですから、エコノミー、執事職、分与があります。

諸地方召会において責任を担う者たちは、神の執事職にあずかる必要があります。これが意味するのは、長老たちが率先してキリストの豊富を人の中へと分与する者となるべきであるということです。キリストはすべてを含み、首位ですが、神の家族の人たちの中へと分与される必要がなおもあります。この分与が起こるのは執事職を通してです。ですから、計り知れない豊富なキリストとからだの肢体との間に、執事職の必要があるのです。主の回復において導く者、諸召会を顧みる責任を持つ者はみな、そのような神聖な執事職に分を持っていることを認識する必要があります。わたしたちはここで、普通のキリスト教の働きをしているのではありません。例えば、わたしたちは外側の方法で聖書を教えることだけに関心があるのではありません。そうではなく、わたしたちはキリストの豊富を神の家族の全員に供給することを願うのです。互いの会話の中で、わたしたちはキリストの豊富を供給する必要があります。聖徒たちの家に夕食に招かれる時でさえ、キリストの豊富を分与する必要があります。これが神の執事職です。

キリストのからだのすべての肢体は、この執事職に分を持っています。エペソ人への手紙第 3 章 8 節でパウロは彼自身を、「すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さい」と言っています。これは、パウロがわたしたちよりさらに小さかったことを示しています。パウロが執事になることができたなら、わたしたちも執事になり、キリストの豊富を人の中へと分与することができるのです。例えば、福音を宣べ伝えるとき、わたしたちは魂を勝ち取ることだけに関心があるべきではありません。むしろ、わたしたちは福音を宣べ伝えて、キリストの豊富を人の中へと分与するという執事職を遂行すべきです。日ごとに三一の神を人の中へと分与することによって、わたしたちの執事職を果たす必要があります。主を賛美します。わたしたちはみなこの執事職にあずかっています！　わたしたちはみな、キリストの計り知れない豊富を人の中へと分与する特権を持っています。ですから、わたしたちは単に福音を宣べ伝えたり、聖書を教えたりすべきではありません。わたしたちはまたキリストの豊富を他の人に分け与えるべきです。

わたしたちは、キリストの豊富を聖徒たちに供給する多くの機会を持っています。仮に、わたしたちが、ある家族が引っ越しするのを手伝っているとします。わたしたちはただ家

具を動かすだけではなく、キリストの豊富を家族の人たちに、特に姉妹に供給すべきです。もし引っ越しを手伝うだけで、キリストの豊富を分与することがないなら、わたしたちは実は、人に対して問題を造っているかもしれないのです。ある家族の物を運ぶのを手伝うことでのわたしたちの目的は、キリストの豊富を分与することであるべきです。そのような奉仕に関するわたしたちのすべての活動は、キリストを伴っているべきです。

キリストの豊富を人に供給するもう一つの機会は、人を接待したり人に接待されたりすることにもあります。接待する人も接待される人もキリストの豊富を供給すべきです。

主がわたしたちの目を開いて、わたしたちがみな神の執事職に分があることを見せてくださいますように。実際の召会生活のあらゆる面で、接待係や集会所を掃除するような事でさえ、わたしたちはキリストを人の中へと分与する必要があります。まず、わたしたちはキリストで満たされ、そしてキリストの豊富を人に供給する必要があります。これがわたしたちの執事職です。

執事の苦難

コロサイ人への手紙第 1 章 24 節でパウロは言います、「わたしは今、あなたがたのために受ける苦難を喜び、そしてキリストのからだなる召会のために、キリストの苦しみの欠けたところを、わたしの肉体において補い満たしています」。キリストの苦しみは、二つの部類から成ります。一つは贖いを成就するためのものであり、それはキリストご自身によって成就されました。もう一つは、召会を生み出し、建造するためのものであり、それは使徒たちと信者たちによって、補い満たされる必要があります。

パウロが神の執事職に関連して、キリストの苦しみについて述べているという事実は、執事職が苦難を通してのみ遂行されることができることを示しています。わたしたちは神の執事職にあずかることを願うなら、苦しむ用意ができていなければなりません。召会の奉仕や務めにあずかる人たちはみな、執事の苦難にあずかる用意がなければなりません。これが意味するのは、わたしたちが執事職を成就するのに必要とするどのような代価も、進んで払わなければならないということです。

すでに指摘したように、わたしたちは人を接待したり人に接待されたりする時、キリストの豊富を人の中へと分与することによって、わたしたちの執事職を遂行する必要があります。しかしながら、人を接待することは、ある種の苦難を伴うかもしれません。同じように、ある人の家庭に客となることも、苦しみの原因となるかもしれません。わたしは多くの聖徒たちの家庭で客となりました。もてなす人は、すばらしい方法でわたしを顧み、必要なあらゆることを行なってわたしの必要を満たしてくれました。それにもかかわらず、わたしが苦しんだのは、自分の家にいなかったからです。接待がどれほど十分であるとしても、わたしはいつも家に帰ることを喜びます。しかしながら、多くの人が、主人か客かどちらであっても、もてなしにあずかることを通して受けた養い、啓発、力づけについて語ったことを、わたしは喜んで証しします。これは、キリストの豊富を神の王家の人たちの中へと分与することによって、神の執事職を遂行することは、大きくても小さくても、あらゆる種類の苦難の価値があることを示しています。続くメッセージで指摘しますが、わたしたちがあずかる苦難はキリストのからだの建造のためです。それらは贖いの成就とは何の関係もありません。

執事は奉仕者である

召会の執事

パウロはキリストのからだ、召会について語って、第 1 章 25 節で言います、「わたしは、神の執事職にしたがって、その奉仕者になりました．それは、あなたがたのためにわたしに与えられたものであり、神の言を完成するためです」。パウロはここで、執事として、召会の奉仕者になったと言っています。

神の言葉を完成する

第 1 章 25 節でパウロはまた、神の言葉を完成することを語っています。神の言葉は、神聖な啓示です。これは、新約聖書が書かれる前には、完成されていませんでした。新約の時に、使徒たち、特に使徒パウロは、神の奥義（キリスト）において、またキリストの奥義（召会）において、神の言葉を完成しました。こうして、神のエコノミーの完全な啓示を、わたしたちに与えました。第 1 章 26 節によれば、神の言葉は、「各時代にわたって、また各世代にわたって隠されて」きた奥義であって、「今や神の聖徒たちに明らかに示されています」。この隠されていた奥義は、キリストと召会、かしらとからだに関するものです。使徒パウロを通して、この奥義が啓示されるとは、神聖な啓示としての神の言葉の完成の主要な部分です。

「各時代にわたって」は、永遠からを意味し、「各世代にわたって」は、もろもろの時からを意味します。キリストと召会に関する奥義は、永遠から、またもろもろの時から、新約の時代に至るまで隠されていました。この新約時代に、それはわたしたちすべてを含む聖徒たち、すなわちキリストにある信者たちに、明らかに示されました。

パウロの時代以前に、神聖な啓示は完成されていませんでした。パウロが出て来て務めをする前、神の啓示はすでに旧約聖書の中で与えられていました。さらに、神は福音書と使徒行伝の一部分に記録された出来事を通して、ご自身を啓示しておられました。しかしながら、パウロが神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会に関して多くの手紙を書いて、神聖な啓示が完成される必要がありました。神聖な啓示のこの完成は、特に彼の四つの手紙、ガラテヤ人への手紙、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙に見られます。

神聖な啓示は使徒たちを通して、特にパウロを通して完成されましたが、実行上、今日またわたしたちを通して完成される必要があります。これは、わたしたちが人と接触する時、漸進的、継続的、漸次的に言葉を完全に語らなければならないことを意味します。言葉を完全に語ること、あるいは言葉を完全に宣べ伝えることは、言葉を完成することです。今日多くのクリスチャンの間で、そのように言葉を完成する大きな必要が確かにあります。最近、ある雑誌は、合衆国には五千万人の再生されたクリスチャンがいると報道しました。彼らのうちの何人が、神が彼らを救われた目的を知っているでしょうか？　ごくわずかです。キリスト教の中で神の言葉が宣べ伝えられてきましたが、完全には宣べ伝えられていません。今日のキリスト教の宣べ伝えは、神の言葉を完成していません。ですから、この完成のために緊急の必要があるのです。

すでに指摘したように、完成を必要とする神の言葉とは、第 1 章 26 節で語られた奥義

です。多くのクリスチャンは神の言葉を宣べ伝えますが、神の奥義が何であるかを人に告げる人はごくわずかです。完全な福音の中で宣べ伝えられる神の言葉は、地獄を逃れて天に行くこととは関係ありません。それは平安、喜び、幸福な生活とも関係ありません。完成される必要がある言葉とは、「各時代にわたって、また各世代にわたって隠されて」きた奥義です。この奥義は秘密にされ、隠されています。もし隠されていなかったなら、それはもはや奥義ではないでしょう。各時代、各世代にわたって秘密にされてきた奥義は神の言葉であり、今や聖徒たちの宣べ伝えを通して完成されなければなりません。この秘密にされた奥義は、神の聖徒たちに明らかにされており、「あなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです」（27 節）。わたしは何年間も福音の宣べ伝えを聞いてきましたが、人がイエス・キリストを信じる時、キリストはその人を救うだけでなく、彼の霊の中に入って来て、彼の命としてそこにとどまると言うメッセージをほとんど聞いたことがありません。今日のキリスト教における宣べ伝えの大半は、このようなものではありません。ですから、神の言葉の完成が必要であるのです。

もしわたしたちがキリストの豊富を人に供給しないなら、神聖な啓示についての彼らの知識は欠けるでしょう。啓示そのものに関する限り、何の欠陥もありません。何世紀も前にすべてのことが完成されました。しかしながら、実行上、特にわたしたちが神の執事職の分を果たさないなら、なおも欠陥があるかもしれません。わたしたちはみな自分の責任を果たし、神の言葉を完成する必要があります。

主の回復の中の新しい人たちは、神の言葉の完成を必要とします。例えば、ある新しい人は、キリストは神また創造主であることを、堅く信じるかもしれません。しかしながら、彼はすべてを含むキリストを認識しておらず、彼をそのようなすべてを含む方として経験していないかもしれません。彼は、キリストは人として、被造物でもあることを認識していないかもしれません。彼はキリストのこの面について聞く時、困惑するかもしれません。これは、だれかがこの事柄について神の言葉を完成し、キリストは神であるが、また人でもあることを指摘する必要があることを示しています。キリストはすべてを含みます。テモテへの第一の手紙第 2 章 5 節でパウロは、人なるキリスト・イエスについて語っています。さらに、キリストの昇天の後、ステパノは人の子が天におられるのを見ました（使徒 7:56）。確かに人は肉と骨を持った被造物です。主は復活の後、彼の弟子たちに、彼が肉と骨の体を持っていることを見せられました（ルカ 24:39）。復活したキリストはなおもそのような体を持った人ですから、彼は被造物であると言うのは正しいのです。それにもかかわらず、宗教の伝統の影響によって、多くの信者たちはキリストについてそのように語ることを願いません。彼らにとって、そのような教えは異端的であるかもしれません。わたしたちは彼らを助けて神の純粋な御言を受け入れさせ、それが言っていることを信じさせる必要があります。これは、わたしたちが彼らを助けて、神の言葉の完成を持たせる必要があることを意味します。

主の回復の中で、わたしたちは神の言葉を完成することができるさらに多くの執事たちを必要とします。わたしたちはみなこのために、負担を負わなければなりません。わたしたちは主の臨在の中でさらに多くの時間を費やす必要があります。それは、主がわたしたちの享受のためにわたしたちの分け前となられ、わたしたちがキリストの豊富を持って人に供給するためです。このようにして、わたしたちは神の言葉を完成する者となるでしょ

う。そしてわたしたちの務めを通して、他の信者たちは養われ、力づけられ、堅固にされ、建造されるでしょう。

　すべての肢体が執事職を遂行してキリストの豊富を供給する時、からだは建造されます。わたしたちの間にそのような相互の執事職がありますように。あなたはキリストの豊富を人に供給し、また彼らはキリストをあなたに供給します。これがわたしたちの状況であるなら、わたしたちはみな養われ、以前にもましてキリストを享受するでしょう。そしてキリストの豊富を分与する執事職を通して、召会は実際的に建造されるでしょう。（コロサイ人への手紙ライフスタディ（1）、第 11 編）